



宮古島市は、地域社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的に、大学（短期大学含む。）高等専門学校及び専修学校に在学する学生を対象として、平成30年程度奨学生を募集します。

宮古島市奨学生を募集

1 採用予定数及び貸与額（無利子）

- (1) 採用予定数：2名
- (2) 貸与額：ア 県内学生 20,000円（月額） イ 県外学生 30,000円（月額）

2 申込み資格

- (1) 市内に居住する者の子。ただし、父または母がともにいない場合、その者が市内に住所を有していること。
- (2) 大学、短期大学、高等専門学校（4・5年課程）及び専修学校の専門課程（修学年限2年以上）に在学する者。ただし、大学院・放送大学・通信教育等の者は除く。
- (3) 経済的理由により就学が困難と認められる者。 ※所得制限あり。
- (4) 独立行政法人日本学生支援機構、民間育英団体等の他団体から奨学金貸与を受けていない者。
※併願することはできませんが、奨学金貸与の併用はできません。

3 申込期間と方法

- 【申込期間】 平成30年5月7日（月）～平成30年5月18日（金）
- 【申し込み方法】 各庁舎備え付けの募集要項に願書等の様式が添付されています。必要書類をすべて揃え、郵送または直接担当課へ提出してください。
〒906-0103 沖縄県宮古島市城辺字福里600-1
宮古島市教育委員会 教育総務課 総務係（城辺庁舎1F）
電話 0980-77-4942

4 申込みにおける必要書類

- (1) 奨学生願書。（1号様式）
- (2) 奨学生推薦調書。（2号様式）※学校長が記入。今年度入学生については、出身高等学校等のもの。
- (3) 在学証明書。 ※平成30年4月1日以降に発行されたもの。
- (4) 平成28年度における成績証明書。
 - ア 入学生の場合は、出身校の成績証明書。
 - イ 在学生の場合は、在学校の成績証明書。
- (5) 本人の健康診断書。
- (6) 住民票謄本。 ※家族及び本人のもの
- (7) 保護者の印鑑登録証明書。
- (8) 世帯における全員の所得証明書、納税証明書。
- (9) 連帯保証人（2名）の住民票及び印鑑登録証明書。
※連帯保証人については、成年者で、保護者と別生計を立てている方を選択してください。





パニパニ☆スクール

今回は、パニパニ番外編！3月に行われた宮古島の学生が主役のイベントの様子を紹介します

～宮古島の高中生たちが全開ライブで躍動!!～

マティダ市民劇場自主文化事業「マティダライブ10」開催

地元高校生たちの文化活動を支援する目的で始まったマティダライブ。ステージに立つまでのすべての運営を高校生自ら体現することで、本気で向き合うことの面白さ感じるのがこの事業です。10年目を迎える今回は、東日本大震災が発生した3月11日と重なることから、実行委員会のメンバーが募った募金を復興に役立ててほしいと「うむい宮古島」に贈呈、活動の幅を広げています。



宮古島市子供の居場所運営事業による「居場所型学習支援教室」生徒募集のお知らせ

宮古島市では、生活が困窮している子育て世帯の子どもに対して、生活指導や軽食の提供、キャリア教育を行うための居場所型学習支援教室を平成28年6月より開所しています。

生活困窮世帯の子ども健康と安全を確保するとともに、学習態度の改善を図るための支援や心のケアの支援、多様性のある教育と学習の機会を提供し、自己肯定感を高め、力強く生きていく力を育む事を目的としています。

子ども達が生まれ育った環境に左右されることなく、安心して夢や希望が持てるような支援を行っていきます。

<<居場所型学習支援教室の内容>>

◆対象：生活保護世帯・準要保護世帯

※上記に当てはまらない場合は、世帯状況を確認しながら判断

◆場所：宮古島市内

◆時間：下校～21時の間（月～土）

◆形式：居場所型学習支援（軽食・送迎あり）

※送迎は要相談

◆お問い合わせ 宮古島市役所福祉部 福祉政策課 09807-73-1981

お気軽にお問い合わせ下さい。



連載

文化財を巡る

No.31



「久松ミヤカ(巨石墓)群」

平成三十年三月に『綾道』の第六冊目となる平良南松原久貝コースが発刊されました。『綾道』は、沖繩振興一括交付金を活用して宮古島市教育委員会が編集発刊を行っている各地の文化財散策用の冊子で、従来の指定文化財だけでなく、より地域の文化財を掘り下げた内容になっています。今回は、この平良南松原久貝コースの中から久松ミヤカ(巨石墓)群をご紹介します。

久松ミヤカ(巨石墓)群は、一九七四(昭和四九年)八月二十九日に旧平良市史跡指定されています。松原、久貝には、かつて多くのミヤカがあったといわれていますが、指定されているミヤカは四基です。

久松公民館に隣接するミヤカは、久貝ぶさぎと呼ばれています。久貝ぶさぎは、板状の石を方形に囲いその内部に二つの石棺を設けています。方形の石囲いは北西―南東方向に9m北東南西方向に8mと久松ミヤカ(巨石墓)群のなかでは最も規模の大きなミヤカとなります。また、内部の石棺の蓋石は海岸線で形成されるビーチロックとよばれる石でできており、一枚石で蓋をしている状況がみとれます。

伝承として久貝ぶさぎは、仲宗根豊見親の夫人宇津免嘉の父親である安嘉宇立親の墓と言ひ伝えられています。

松原にも二つのミヤカが残されています。久貝ぶさぎよりは小型ではありますが、板石状の石で囲いを行い内部に石棺を設ける点は久貝ぶさぎと共通しています。

稲村賢敷と金子エリカの両氏は、久松ミヤカ群について研究調査を行っております。久松ミヤカ群について稲村賢敷は「宮古在来の風葬墓で、十五世紀末頃まで巨大なものへと発達、その後沖繩本島の影響を受けて横穴式へ移行し

た」と考え金子エリカは「一三六〇年頃から元明動乱をさけて、優秀な技術をもつて大陸から渡来した一群の人々によってつくられた」と考えています。

現在ミヤカと呼ばれる代表的な墓は、大立大殿のミヤカ(平良)、仲屋金の盛のミヤカ(平良)、スサビミヤカ(伊良部)、スムリヤミヤカ、川満大殿の墓(洲鎌)などがあります。スサビミヤカ、スムリヤミヤカ、川満大殿の墓は、規模も大きく当時の石工技術の高さを伺うことができます。

これらのミヤカについては、伝承などが残されている場合が多いですが、人骨の分析や、その墓の年代については発掘調査のデータも少なく、宮古の歴史を考える上での大きな研究課題の一つとされています。



久貝ぶさぎ



松原ミヤカ